

それぞれが即興演奏家／パフォーマーとして、  
そして同時に批評／小説／エッセイの書き手として、  
音楽と文学の領域を横断しながら独自の活動を続けてきた吉田アミと大谷能生が、  
2015年の夏に初のオリジナル舞台作品『デジタル・ディスレクシア』を、  
〈吉田アミ、か、大谷能生〉名義で発表します。  
出演者／共同製作者にダンサー／振付家の岩淵貞太、  
ファッション・デザイナーの有本ゆみこ (SINA SUIEN)、  
映像作家の齊藤洋平 (rokapenis / VEJ) をむかえ、  
声と文字と身体とのあいだにあらたな切断と再統合を作りだす真夏の3日間。

バロウズによると、言葉は宇宙からやってきた寄生体なのだそうです、  
インターネットによる情報の爆発的な繁茂は、  
言葉と文字と声との関係をこれからどのように変えてゆくことになるでしょうか？  
観客に〈デジタルな失読〉を誘発させるだろう  
私たちの舞台にご期待ください。

吉田アミ、か、大谷能生